



著者プロフィール

望月 周（もちづき・しゅう）句集『白月』（はくげつ）

1965年3月11日 東京都生れ

1991年 「蛙」入会

1993年 「蛙」退会

1999年 「百鳥」入会

2002年 第9回百鳥賞受賞

2008年 第15回鳳声賞受賞

2010年 第56回角川俳句賞受賞

現在 「百鳥」同人・編集長、俳人協会会員

共著 『俳コレ』

〈句集『白月』より転載〉〈2014年9月21日時点〉

『白月』（自選15句）

望月 周

九官鳥同士は無口うららけし
 風墜ちて風の吐いたるごとく糸
 蠟燭が火より短し夕蛙
 白きもの白く塗り直されて夏
 唇をプールの漣にゆるし
 蓮は明日咲きさう今宵盗られさう
 流灯の白蛾を連れてゆきにけり
 夜を眠る草より穂絮飛びやまず
 流れ星贈らんと連れ出しにけり
 銀漢の遙か手前でバスを降り
 噴煙を噴火が照らす秋の暮
 火の中を火の粉がとほる寒さかな
 みじろぎもせぬ寒鯉に傷新た
 三寒は我に四温は母に来よ
 一本の冬木をめがけ夜の明るる